

たまっくり

広報

人口と世帯数

50年 4 月 1 日現在

(単位・戸、人)

総人口 13,848人

男 6,800人

女 7,048人

世帯数 3,080戸

(毎月1回発行) 発行人町長 坂本常蔵 昭和38年 1 月 23 日第三種郵便物認可
印刷所 さんゆう社印刷 定価10円



三〇周年記念
合同慰霊祭
しめやかに
行なわる

玉造町・玉造町社会福祉協議会主催の合同慰霊祭が、三月二一日、彼岸の中日に、玉造小学校を会場として、とり行なわれました。

この催しは、戦没者、戦災者の霊を慰めるため、毎年、行なわれておりますが、今年、終戦後三十年にあたりますので、各地区に分れていたものを、合同で行なったものです。

会場には、遺族の方々をはじめ、関係者が多数出席され、亡き夫、亡き児を偲びながら、厳肅な雰囲気の中、しめやかに、慰霊の一日を終りました。

▲写真

会場の模様

老人いこいの家
玉川幼稚園
手賀小学校屋内運動場
現原小学校プールを造ります。

15億4,460万円

昭和50年度一般会計予算

昭和五〇年度玉造町議会第一回定例会が、三月十一日から十五日まで、開かれました。
会期中、十六の議案が審議され、それぞれ可決成立しました。第一回定例会は、通称「予算議会」と呼ばれており、議案中にありこまれた予算も、説明いたします。

(一) 産業の振興

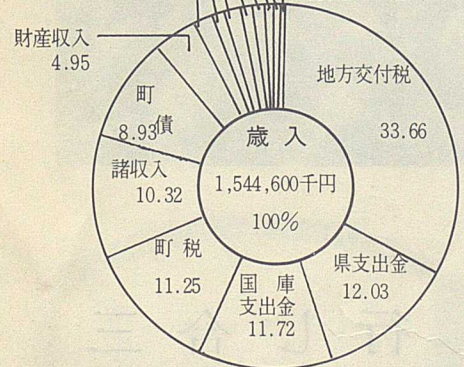
農業をとりまく情勢は、一方では、食糧危機が叫ばれ、自給体制の確立が説かれながら、農業担い手の劣弱化、農用地の転用、農業資材の需給価格の問題など、困難な様相を呈しております。
今年度も、近代的な農村建設をすすめるための基礎となる土地基盤整備事業、構造改善事業を推進してまいります。五千八百六十三万円を、これに計上いたしました。さらに、

作物の運搬の効率化をはかるため、農道の整備をすすめます。また、

榎本地区に、昨年完成した農民研修センターの高度利用をはかり、農業技術の相互交流、農業後継者の

一般会計歳入

自動車取得税 0.78
寄付金 1.29
繰越金 1.51
繰入金 2.01
地方譲与税 0.71
使用料手数料 0.49
分担金負担金 0.30
交通安全対策金 0.05



育成・研修の場になります。このほか、手賀漁港の整備事業を継続し、漁業の振興をはかってまいります。
尚、本年度は、玉造町が合併して二十年を迎えますので、記念行事の一環として、前年度に引き続き、産業文化祭を盛大に実施いたします。

(二) 人づくりのための事業

小・中学校の教育は、現代社会にふさわしい心身ともに健全な社会人を育成し、社会発展の基礎をつくることにありますので、前年度に引き続き教職員の自主的研修を実施し、児童・生徒の豊かな人間形成をはかります。また、給

また、中央公民館も、第五年目を迎え、社会教育の場として、各種学級、各教室を開催、その内容を充実させ、新たに視聴覚ライブラリー事業もとり入れ、学習等供用施設の建設とあわせ、広域的な公民館活動をすすめます。

(三) 住みよい郷土の建設

社会福祉対策は、年々向上してまいりましたが、本年度は、特に、老人福祉を優先させ、老人の安らぎといこいの場、老人いこいの家を、泉地区に、三千五百万円を計上し建設します。
七〇歳未満のねたきり老人、

総額

零歳児、重度心身障害者等の医療につきましては、負担の軽減をはかり、児童手当の支給等、福祉の充実をすすめて、更に、日常的な健康管理といこいの場所として、児童公園を設置します。

年金事業については、未適用者の勧奨につとめ、国民年金を目指し、障害、母子年金等該当者の把握につとめるとともに、年金本来の使命を増進します。

疾病から、町民ひとりひとりの健康を守るために、衛生思想の高揚、集団検診、予防接種事業等を積極的に推進します。

環境整備には、ごみ処理、し尿処理があげられます。

ごみ処理については、現在実施中の委託業者による収集をさらに効率的にすすめて、町営のごみ捨て場には、管理人を依頼し、管理の徹底をはかります。また、不法投棄の防止につ



玉造町長

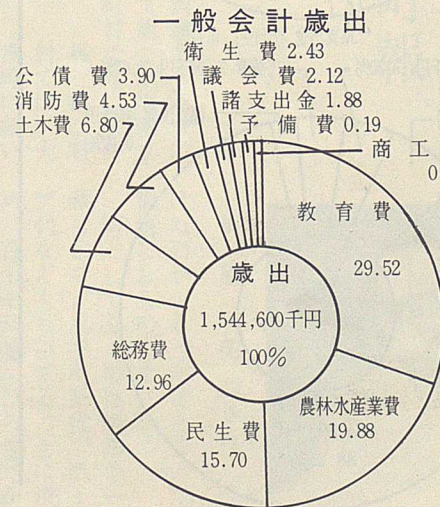
坂本 常蔵

昭和五〇年度事業を

推進するにあたって

昭和五〇年度予算が可決成立し、いよいよ、新年度事業がスタートするにあたり、町政運営の基本方針を述べたいと思います。

最近のわが国の経済社会をとりまく情勢は、石油危機を契機に表面化した資源問題、インフレの進行、また、これに対処するための財政、金融、面々の総需要抑制策に伴う景気停滞の深刻化等、困難な局面を迎えております。



ながら、農道整備、集落道整備、集落排水事業をすすめてまいります。
直営舗装道路については、前年度に引き続き、一〇、〇〇〇メートルの実施の予定です。

日常生活に欠かすことのできない水道事業については、既に完成した中央区・泉区の管理

この時にあたり、これらの観点をふまえて、町政運営にあたりましては、玉造町振興計画の基本方針であります。

「明るく住みよい郷土の建設」・「繁栄をもたらす産業の振興」・「知性と健康に満ちた町民の育成」を三本の柱といたしまして、玉造町発展のために全力をかため、町民の皆様方の特段の御協力をお願い申し上げます。

四月一日から 広域消防が発足

鹿行八ヶ町村で…… ……本部を鉾田町に

四月一日から、鉾田町を核として、鹿島郡北部三ヶ町村（旭村、鉾田町、大洋村）、行方郡全町村（麻生町、牛堀町、潮来町、玉造町、北浦村の五ヶ町村）に、広域消防組合が正式に発足しました。そこで、広域消防の意義、目的などについておしらせします。

◎広域市町村圏とは

生活水準の向上にとともに、道路の舗装、下水道の整備、公共施設の充実など、地域住民の市町村に対する行政需要は、ますます高度化・多様化してまいりました。

また、交通・通信の発達によって、住民の行動範囲が広くなり、市町村の区域を超えて、日常生活圏といったものが、

昭和三十五年国勢調査では、人口十九万六千七百七三人、

◎鹿行広域市町村圏の概況

茨城県東部南端に位置する鹿行地方は、利根川・霞ヶ浦・北浦・鹿島灘・酒沼と水に囲まれた平坦地であり、この圏域は、鹿島郡の七ヶ町村、行方郡の五ヶ町村で構成されています。

世帯数四万四千六百十二戸を有し、前回の国勢調査に比べて、人口一万五千五百九十四人、世帯数八千三百三十三戸増加し、今後も増加の一途をたどっています。

これにともない、鹿島臨海工業地帯の飛躍的発展のため、いち早く、鹿島南部地区消防事務組合が、昭和四十五年に結成され、大野村・鹿島町・神栖町・波崎町の四ヶ町村が加入、現在、その成果は、すばらしいものがあります。

◎広域消防は、なぜ必要か
日本の経済は、この十年間に、飛躍的な発展をとげてまいりました。とくに、鹿島臨海工業地帯が建設されて以来、鹿行二郡でも、今まで農業等に従事していた若者の、生産業やサービス業への転換が目立って多くなってきました。いわゆる在宅家庭者が少なくなくなっています。

従って、非常備消防団員の確保が、たいへんむずかしくなっています。

一方、住宅団地、工業団地が計画、建設され、建築物の中高層化、密集化や、新建材・化学燃料の普及により、ひとたび災害が発生したならば、その被害は、人的にも、物的にも、莫大になることが予想されます。

また、高度成長にともなうモータリゼーションの発達と、鹿島臨海工業地帯に包含されている関係から、鹿行二郡は、異常な交通量の増加に従って、交通モラルの不足、交通環境整備のおくれをきたし、交通事故の発生も目立っています。

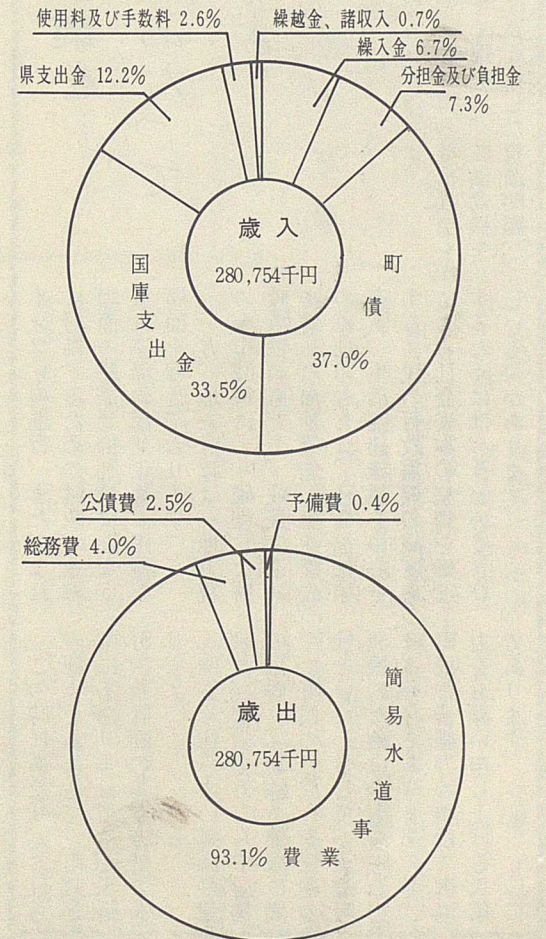
加えて、不時の、または夜間、休日における救急業務等これに対処すべき体制を確立することは、必至であります。そこで、広域市町村圏は、お互いに協力しあうて、これらの災害に対応することが、必要になるわけです。

◎鉾田町に本部を設置

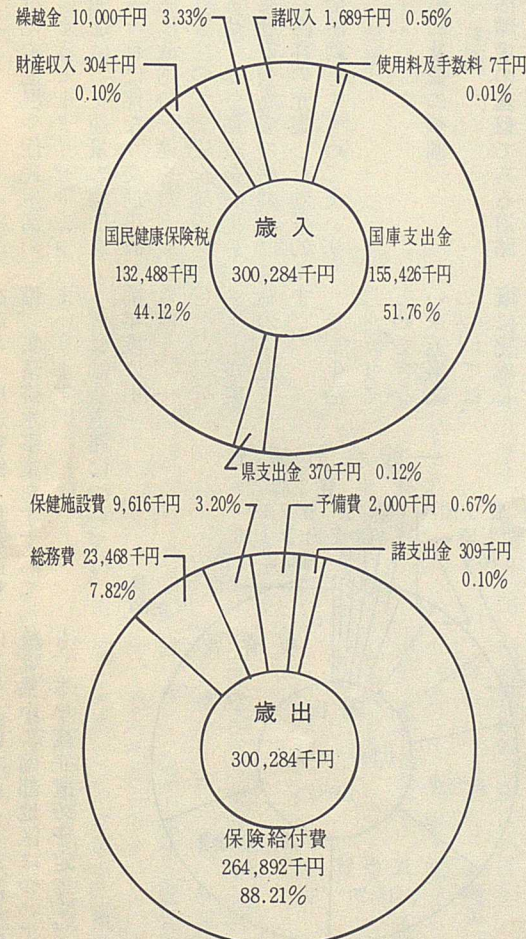
広域消防は、八ヶ町村で設立された「鹿行広域市町村事務組合立」の消防で、組織は、次のとおりです。

消防本部（鉾田町に設置）
鹿島北部消防署（本部に併設）
行方北部消防署（北浦村に設置、玉造町は、この管内に入ります。）
行方南部消防署（牛堀町に設置）

特別会計簡易水道事業予算



特別会計国民健康保険



現在設置してある各町村の消防団とも、連絡を密にして、務に従事するものです。

耳で聞く町報 手で触れる町報

町報「たまつくり」に
点字版とテープ版が

出ました。

甲 昭二さん



町の動きを知りたいという盲人の方々のために、町報「録音したテープ版とが出来るたまつくり」を点字に翻訳した。県内市町村では、十番

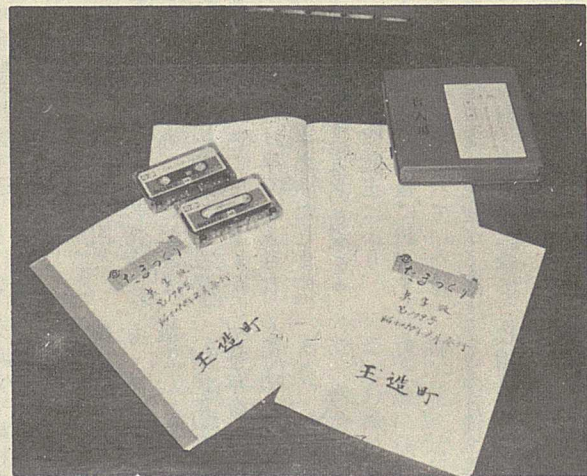
目、特に町では、大洗町に続いて二番目です。

これは、たまたま、他の市町村でつくられていた点字版・テープ版を手に入れた、内宿の甲昭二さん、柳瀬三郎さんが、玉造町にも、是非ほしいと町に働きか

けたのが、きっかけとなって、実現したものです。

町としても、福祉事業の一環として、点字用紙代、テープ代などを負担することに決め、百七十八号（二月号）から実施されることになりました。

現在、十七名の方が利用してありますが、利用者の間では、テープ版の方が好評を博しています。しかし、テープ版は、聞き終えたら、次の録音のために、県盲人福祉センターに返送しなければならぬため、保存版としては、点字版の方が便利です。



町報「点字版」「テープ版」

明日のため 老後のために

国民年金

◆奥さんも加入しましょう、国民年金に◆
サラーマンの奥さん！
自分の名前で加入し、自分の名前前で年金を受けられる国民年金の任意加入制度のあることをご存知でしょうか。
国民年金は、農業や自営業の方を対象としておりますが、ご主人が厚生年金保険などに加入している家庭の奥さんも加入できるただ一つの制度です。ご主人が加入してい

る厚生年金保険などの保障はありますが、国民年金に加入しますと、将来ご夫婦そろって老令年金が受けられますし、自分が病気やけがをした場合は障害年金が、また、ご主人が万一の場合は、厚生年金保険などから、遺族年金、国民年金から母子年金などが支給されます。
年金額は母子年金額の場合で、月二万三千二百二十〇円ですが、消費者物価指数が変動

季節の話題



陽気があたたかくなつて気がゆるむせいとか、かぜを引きやすいこのごろです。あの寒い冬のさなか、緊張していたかぜ一つ引かなかった丈夫な人が、花もほころぶこの四月、しゅるしゅる鼻をす

すっている風景を見かけます。かぜとはつきりわかつたらすぐ手当をしましょう。ぐずぐずしている夏まで持ちこすことがありません。
風が吹いてホコリも多い季節です。花粉や綿くずで眼をやられることも多いときです。

外出から帰ったら必ずうがいと洗眼を忘れずに……。急に暖かくなるような日には、花屋さんの花も店先で一気に咲き急ぎます。そういえば、高価だったバラやチューリップをはじめ、アイリス、フリージア、ヤグルマ草などふだんの半分ぐらいの値段で買えます。
庭にはびこる雑草も、今はまだ若々しく、抜きとるにはかわいそうな気がしますが、

このたび、玉造町担当の行政相談委員として、久米久良さんが、行政管理庁長官から、委嘱されました。
行政相談委員は、国の行政やがて抜かなければならないなら、今のうちに抜きとっておきましょう。
朝、ご主人を送り出したあと、玄関先の雑草とか、洗たく物をほし終って次の仕事にかかる間の息ぬきに、足もとの草の一本も「そのうちに……」と思っているうちに根が張って抜きとりにくくなります。
久米久良さんは、玉造町甲三二七（下宿）にお住いで、電話は、五一〇二六四です。
役所の仕事について
◎テキパキやってももらえない
◎不親切な扱いをうけた
◎納得できない
◎どうしてよいかわからない
◎こうしたほしい
などの苦情や相談や意見などをもちの方は、気軽に申出て下さい。
取扱いは無料ですし、自分の名前を秘密にされたい方は、御希望にそつよう取扱つていただけます。

久米久良さん 行政相談委員に就任

で定めている手足の切断などの障害や結核などの内部障害のほかに、平衡機能障害や言語障害などすべての障害が対象に含まれ、その障害の程度も一級に比べて軽いものを二級として定めています。
国民年金の障害年金や障害福祉年金の請求を一度もしたことのない人で、一級または二級に該当すると思われる人や、福祉年金の請求をしたが一級非該当として却下されたり、一級に該当して障害福祉年金を受けていたが、その後の症状が一級非該当のため支給停止中の人で、二級に該当すると思われる人は、ぜひ、役場年金係に相談してください。

ぼくのおとうさん

羽生小一年

さくらいよしひろ



元気で物知り
運動はなんでも
得意
ぶろふいる

ぼくのうちのおとうさんは、さかなをやっています。さかなをうったり、つくだにをにたりします。ときどき、かすみぐらにいてさかなをあげたり、さかなのえさをやったりします。
まいにち、さかなをにているからかおがまつかです。さかなをにるときには、ひしゃくに、たかさんのしょうゆやさとうをつかいます。
そのほか、りょうしの人がとってきたうなぎをさいて、なまのまま、びにににいてうるときもあります。
ぼくは、おとうさんといっしょに、かすみぐらの、あみいけすにときどき、さかなのえさをやりいくときがあります。おとうさんが、あみいけすにちかづくと、こいやきんぎよががたをみせます。こいやきんぎよは、えさをもらえぬのが、わかるのか、あみのはじつこのほうへよつてきて、ぴちやぴちやねるの

ねて、おとうさんは、びしよにぬれてしまします。あみいけすからかえつてくるおとうさんは、おがわのじんでんに、なまのわかさぎやえびをうりにいきます。
たまになにかをかってきてくれます。ぼくが、「どうもありがとう」というと、おとうさんは、にこつとわらつてかてきたものをくれます。
でんわでさかなのちゅうも

ことものこころ

しんせき

羽生小四年 平野 昌英



明るく親切で
クラス一の人気者
特に書道は拔群
ぶろふいる

林のおじいちゃんの家は
おみせやさん。
いろいろな物が売っていて
いなかと思つ。
ぼくがとまりに行くとき
おじいちゃんは
「おうよくきたなあ。」
と、言つてぼくのすきな物を
くれる。
休みになると
かならずとまりに行く。

文化財をたずねて (1)

西蓮寺仁王門

戸羅度（しらと）大乗山
曼珠院西蓮寺は、延暦年間（約千二百年前）桓武天皇の勅願により、最上人によつて建てられた天台宗の古刹で、昔から関東の高野山として名高い。仁王門は

室町後期の天文十二年（約四百三十二年）建立と推定され、もとは三間一戸の楼門であつたが、今は二階がない。本堂前の相輪櫓の近くにあつたのを、天正四年（三百九十九年前）に一階建の山門に修



仁王門

も大切に保存したいものである。

A large group of students, likely from a primary or secondary school, are posed for a group photograph in a gymnasium. They are arranged in many rows, filling most of the frame. The students are wearing dark-colored school uniforms with white collars and white ties or scarves. Some students are holding small white cards or papers. The background shows the interior of a gymnasium with a wooden floor and some equipment visible in the distance.

四月一日付

（内は旧職）

- ◎建設課長 坂本行（給食セ
ンター所長）
- ◎給食セクター所長
高塚保（国保係長）
- ◎水道係長 石橋静男（建設
課管理係長）
- ◎国保係長 五十嵐康雄（徴
収係長）
- ◎徴収係長 石毛正子（主幹）
- ◎建設課管理係長 細谷節夫
（土木係長）

今日から

楽しい幼稚園
名前を呼ばれたら
大きな声で
手を上げて

- ◎土木係長 小松崎忠良（福祉係長）
- ◎福祉係長 鈴木亮然（社教主事）
- ◎教育委員会に 栗又敏治（企画課）
- ◎企画課に 菅谷秀一（教育委員会）
- ◎産業課に 松金将行（税務課）
- ◎町民室に 小沼徳雄（産業）
- 新採（四月一日付）
- ◎税務課へ 石田泰雄
- ◎教育委員会へ 関口泰子
- ◎教育委員会へ 斎藤早苗
- 退職 長い間、御苦勞様でした。
- ◎萩原健吉（建設課長）
- ◎斎藤四万寿（総務課）
- ◎塙真理子（教育委員会）
- ◎郡司典子（教育委員会）

誕生おめでとう
ございます

出產

2月

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|
| 山 | 山 | 小 | 浅 | 根 | 阿 | 遠 | 菊 | 福 | 海 | 赤 |
| 口 | 田 | 曾 | 野 | 本 | 部 | 藤 | 池 | 田 | 東 | ち |
| 淳 | 玲 | 根 | 哲 | 和 | 優 | ゆ | 由 | 幸 | 一 | ん |
| 子 | 子 | 文 | 平 | 行 | 子 | かり | 美 | 男 | 郎 | |
| 二 | 長 | 長 | 長 | 長 | 二 | 長 | 長 | 長 | 長 | 続 |
| 女 | 女 | 男 | 男 | 男 | 女 | 女 | 女 | 男 | 男 | 柄 |
| 久 | 哲 | 有 | 孝 | 喜 | 孝 | 清 | 洋 | 保 | | |
| 雄 | 夫 | 嵯 | 三 | 剛 | 一 | 一 | 一 | 護 | | |
| 緑 | 西 | 芹 | 諸 | 根 | 八 | 上 | 羽 | 羽 | 部 | |
| ヶ | 蓮 | 沢 | 井 | 古 | 木 | 山 | 生 | 生 | 落 | |
| 丘 | 寺 | | | 屋 | 蒔 | | | | | |

訂正

恵	長女	洋正	上宿
理子	長女	修	新田
六子	三女	仁	新田
澤夫	長男	悦夫	根古屋
芳樹	長男	正広	小座山

前号で、須藤賢一君のお父さんを、弘としましたが、賢の間違いでした。おわびして訂正します。

おみやぎを
申し上げます

死亡

2月

- | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|
| 高塚 | 岩瀬 | 郡司 | 中野 | 小沢 | 沼田 | 重藤 | 木村 | 沼田 | 斎藤 | 郡司 | 須貝 | 高塚 | 今泉 | 大久保 | 若泉 | 氏名 |
| た | ふ | | 忠 | 兵 | し | ヨ | 五 | 弘 | ま | 雄 | ち | 庫 | 裕 | 幹 | 春 | |
| ま | 健 | よ | 弘 | 夫 | 部 | げ | 子 | 郎 | 次 | つ | 蔵 | よ | 助 | 美 | 春 | |
| 四五 | 六九 | 七三 | 三八 | 三九 | 六七 | 九四 | 七五 | 五一 | 七七 | 八二 | 五九 | 七六 | 八五 | 六 | 七八 | 年令 |
| 舟津 | 里 | 捻木 | 羽生 | 谷島 | 里 | 中山 | 川向 | 諸井 | 諸井 | 新宿 | 浜 | 舟津 | 若海 | 中山 | 芹沢 | 部落 |

あとがき

来がはげしくなります。

○今月号は

○満々と水をはった田に
映る鯉のぼり
畔道も、いよいよ、人の往